

手順書:動脈血液ガス分析関連

23. 橈骨動脈ラインの確保(1)

【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見(呼吸状態、努力呼吸の有無、チアノーゼ等)及び検査結果(動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)等)等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経皮的に橈骨動脈から穿刺し、内套針に動脈血の逆流を確認後に針を進め、最終的に外套のカニューレのみを動脈内に押し込め留置する

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

- ☐ 循環動態が不安定で持続的な血圧のモニタリング、酸塩基平衡・電解質・貧血等の評価のために頻回の採血等のために動脈ラインの確保が必要な患者
- ☐ 既に動脈ラインが挿入されていて入れ替えが必要な患者

病状の
範囲外

不安定
緊急性あり

⇒ 担当医師に直接連絡

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ☐ 出血傾向がない場合
- ☐ 穿刺部の血管に病変・異常がない場合

病状の
範囲内

安定
緊急性なし

【診療の補助の内容】

- ☐ 橈骨動脈ラインの確保
 - ・手術や集中治療が必要な患者で、十分な監視と対応ができる環境下で行う
 - ・Allen test で陽性(回復時間が5秒以内)であることを確認する
 - ・適切な肢位をとらせ手首を固定する
 - ・ポピドンヨードやクロルヘキシジンにて消毒する
 - ・20G または 22G の留置針を使用し 30～40 度の角度で動脈に向かって穿刺する
 - ・内筒に逆血を確認したら、針を寝かせ数 mm 進める
 - ・内筒と外筒を少し分離して、外筒に逆血があるかを確認する
 - ・外筒を挿入し、内筒を抜去する
 - ・動脈の近位側を閉塞させ圧ラインを接続し、波形を確認する
 - ・ルート内の air を抜き、固定する

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- ☐ 意識レベルの変化
- ☐ バイタルサインの変化
- ☐ 穿刺した動脈の触知状態と血腫形成の有無
- ☐ 出血の有無
- ☐ 神経障害の有無
- ☐ 腋窩リンパ郭清の有無

<確認事項>

異常・緊急性あり

⇒ 担当医師に直接連絡

【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

- ☐ 担当医師に直接連絡する

【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

- ☐ 担当医師に直接連絡する
- ☐ 特定行為の実施を診療録に記載する